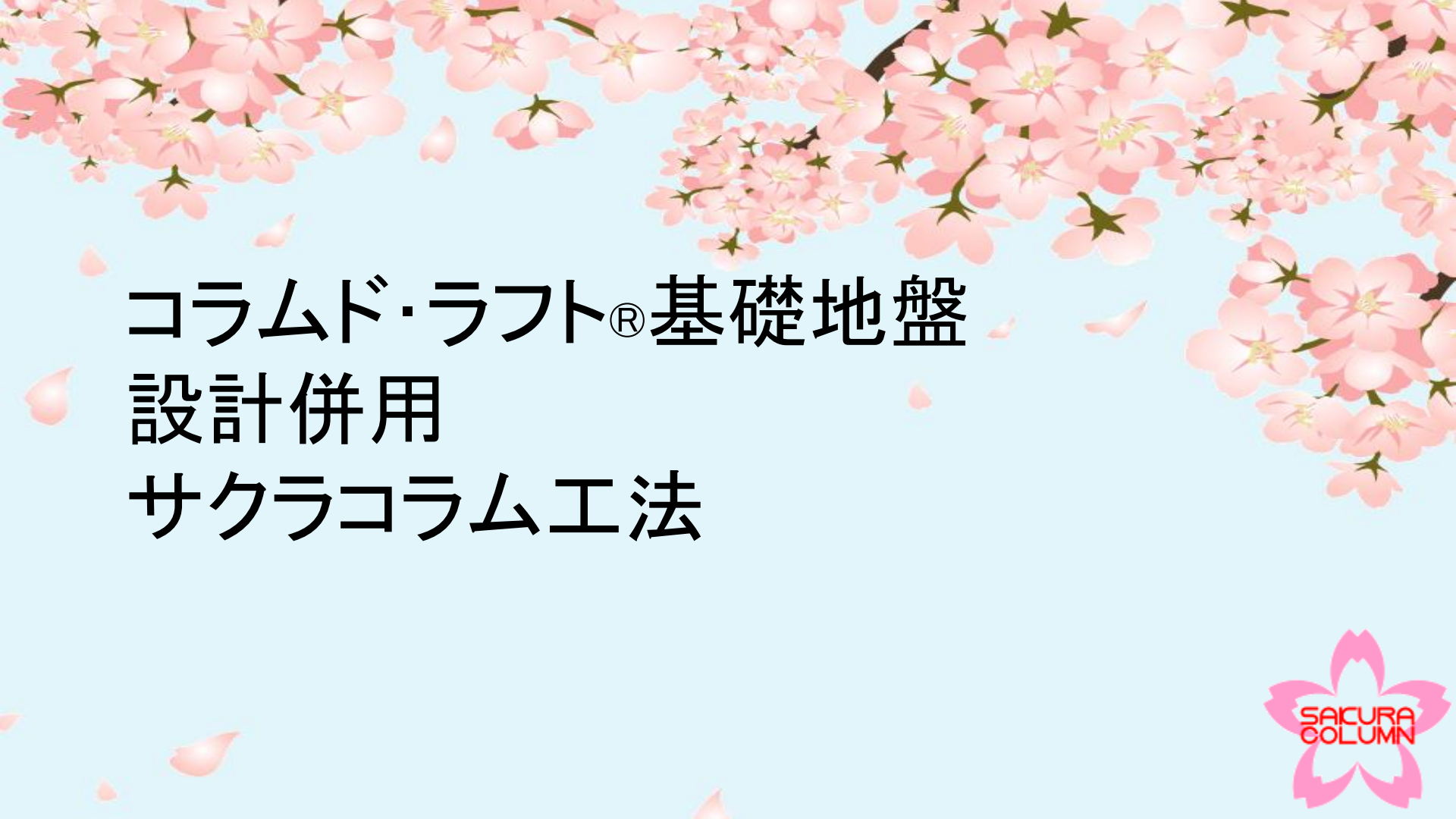
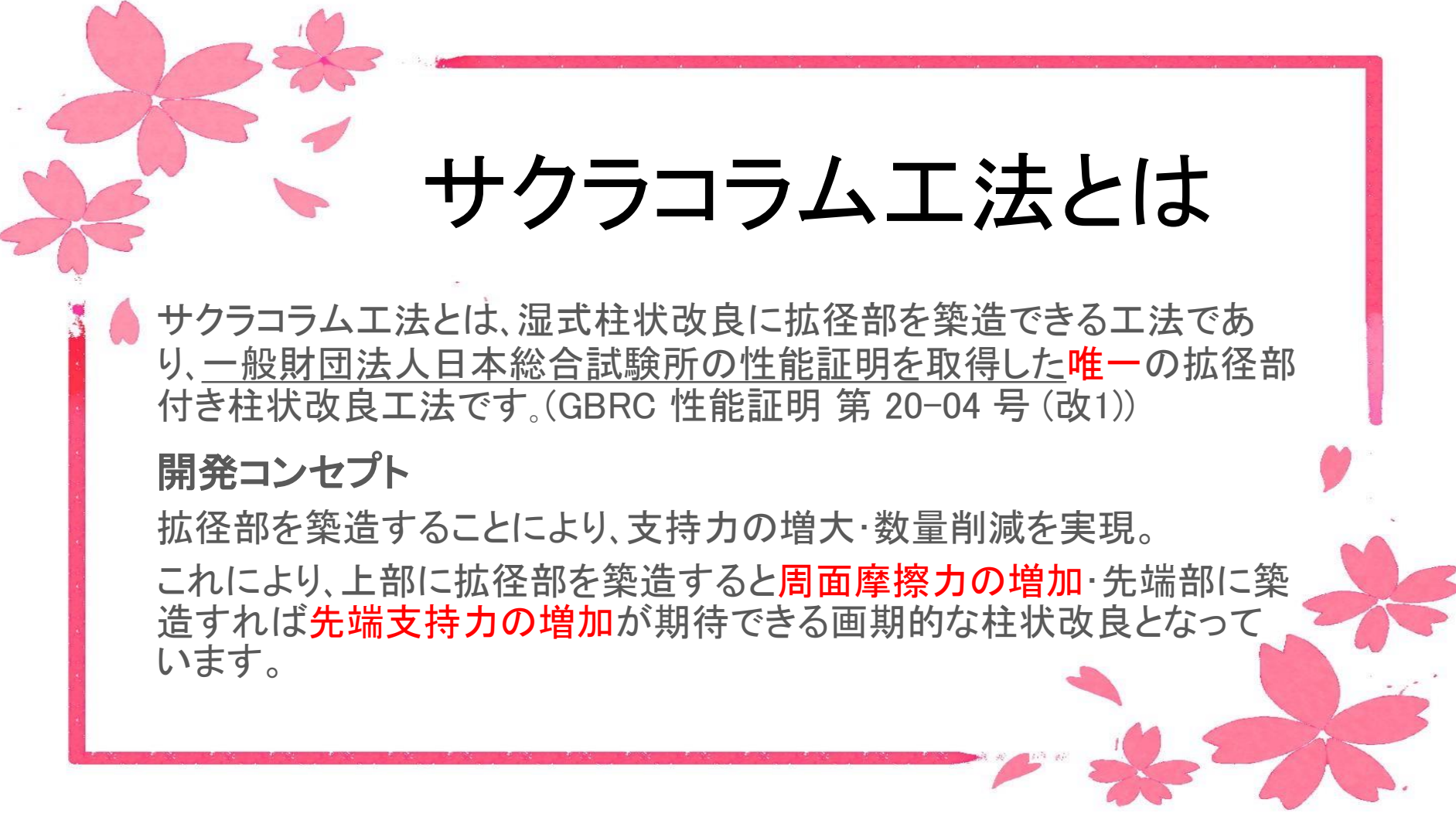




コラムド・ラフト®基礎地盤 設計併用 サクラコラム工法





サクラコラム工法とは

サクラコラム工法とは、湿式柱状改良に拡径部を築造できる工法であり、一般財団法人日本総合試験所の性能証明を取得した唯一の拡径部付き柱状改良工法です。(GBRC 性能証明 第 20-04 号 (改1))

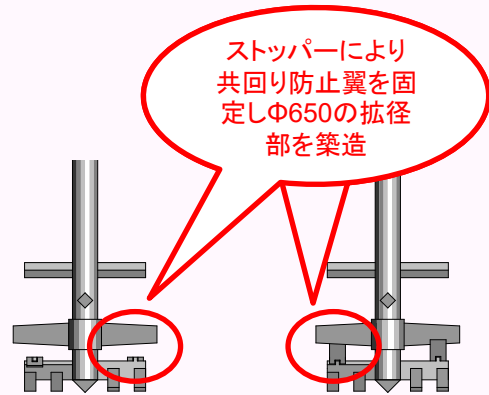
開発コンセプト

拡径部を築造することにより、支持力の増大・数量削減を実現。

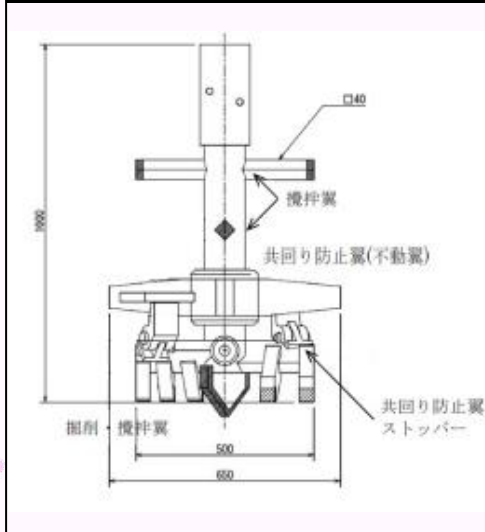
これにより、上部に拡径部を築造すると**周面摩擦力の増加**・先端部に築造すれば**先端支持力の増加**が期待できる画期的な柱状改良となっています。

★専用機材

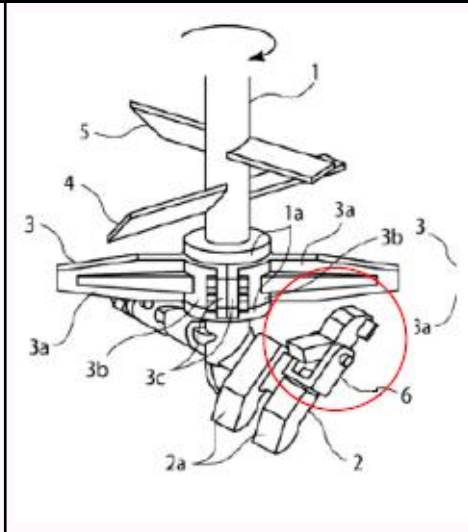
この工法はゼロド 株式会社が開発し特許を取得した掘削攪拌装置(特許第 5652972 号)を使用して施工するものであり、柱状改良体の任意の深度に拡径部を築造することが可能となっています。



攪拌ビット詳細図



共回り防止翼ストッパー



実物写真



拡径部の築造・分散添加剤(サクラリキッド)

- 拡径部を確実に築造するために、分散材によってスラリーと攪拌した改良土の流動性を高める。
- 添加量は固化材重量の1%とする。



拡径部





適用範囲



★本工法の適用地盤

- ・粘性土
- ・砂質土

★杭径

- ・軸部Φ500mm
- ・拡径部Φ650mm

★改良長さ

- ・最大改良長:8.00m

★適用建築物

- ・一般建築物
- ・配合試験必須(流動性向上のための添加材使用)
- ・全長コアボーリングによる品質管理

★小規模建築物

- ・配合試験不要、モールドコアによる品質検査が可能

・配合量

関西：砂質土 280 kg/m³・粘性土 280 kg/m³・腐植土 320 kg/m³
関東：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・ローム 320 kg/m³・腐植土 350 kg/m³
中部：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・腐植土 320 kg/m³
中国：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・腐植土 320 kg/m³
九州：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・腐植土 320 kg/m³
東北：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・腐植土 320 kg/m³
北陸：砂質土 280 kg/m³・粘性土 300 kg/m³・腐植土 320 kg/m³

(流動性向上のための添加材使用)

- ・設計基準強度:粘性土700kN/m² 以下 砂質土1000kN/m²以下

適用条件



- ①スクリーウエイト貫入試験により、原則計画建物の四隅の地盤調査を行った宅地であること。
- ②スクリーウエイト貫入試験の結果、※ $W_{sw}0.75kN$ 以上の層が1.00m以上連続する層を支持層として使える地盤であること。
- ③基礎配置内に盛土と切土が混在する場合は、別途検討が必要となる場合があります。

(※ W_{sw} :スクリーウエイト貫入試験において、静的貫入を行う際の荷重の大きさを示す。)

※検討を行うにあたり、基礎スラブの引っ張り応力度を算出するために配筋の詳細が必要となりますので、基礎伏図及び基礎断面図の御支給が必要となります。



サクラコラム工法協会

運営:株式会社 JFDエンジニアリング

大阪府大阪市北区堂島2丁目1番31号

京阪堂島ビル5F

TEL:06-6690-8343

FAX:06-6690-8354

info@zrd.jp